令和４年度計画の達成状況に基づく点検・評価報告書

第３期中期計画	令和４年度計画	評価区分	令和４年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
8.　教育研究等環境 **【計画44-1】（総務人事部）** ポストコロナに向け、各学部・研究科等における教育研究組織の整備・充実に配慮した適切な施設・設備について、計画的な整備を図るとともに、教育研究等の環境整備について、その適切性について点検・評価、検証を行い、その結果を改善に反映させる。 **【計画達成のための方策】** 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況	**【年度計画 44-1】** 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況	Ⅲ	・令和４年度整備計画を作成し、計画的整備を推進し、計画 10 件中 7 件を完了した。2 件は予算獲得や設計変更等の状況から次年度に繰越し、1 件は今後の DX 事業と整合を図るため再検討することした。適正な計画作成と適宜の計画見直が出来た。				
【計画44-2】（総務人事部） ポストコロナに向け、「環境整備に関する実施計画」に基づき、教育研究等を支援する環境等の整備・充実を図る。 **【計画達成のための方策】** 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設･設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設･設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設･設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底する	**【年度計画 44-2】** 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設･設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設･設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設･設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底する	Ⅲ	1. 校舎のバリアフリー化を推進し、R4 年度五反田本館バリアフリー化工事の増築確認申請は完了、予算確保の観点から R5 年度へ繰越した。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は調査・検査結果に基づき適正に計画・実施できた。世田谷本館アリーナのガラスブロック壁面工事、国立病院機構キャンパス本館研究棟外壁防水工事及び世田谷本館アリーナの屋根防水補修工事は完了し、立川体育館用音響設備老朽化による更新と照明交換も完了し老朽化対策を適切実施した。なお、雄湊キャンパス本館事務室拡張工事（要増築申請）は、学生対応の向上を図るため設計変更が必要となり増築申請を次年度に繰越したため工事も R5 年度へ繰越した。				

第３期中期計画	令和４年度計画	評価区分	令和４年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
とともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4.学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ コモンズ）の整備に努める。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況 **【計画45】（学長戦略本部）** 「多様な価値観を尊重し、一歩先を歩み続ける医療」を支える「一歩先の教育」を実現するため、ＤＸによる基盤強化により「学修者本位の多様な教育の提供」、「学びの質の向上」を図る。 **【計画達成のための方策】** 1.教育ＤＸの推進。 ポストコロナにおいてもＤＸを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント（ＤＳ）やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。 ◇ＩＴ基盤の強化 ・ネットワークの強化（5Ｇ対応） ・セキュリティー対策 ・シングルサインオン導入 ・学生ＰＣの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備	とともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4.学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ コモンズ）の整備に努める。 **【評価指標】** ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況 **【年度計画 45】** 1.教育ＤＸの推進。 ポストコロナにおいてもＤＸを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサプリメント（ＤＳ）やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。 ◇ＩＴ基盤の強化 ・ネットワークの強化（5Ｇ対応） ・セキュリティー対策 ・シングルサインオン導入 ・学生ＰＣの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備	Ⅳ	3.世田谷キャンパス調理実習設備老朽化による視聴覚設備更新、船橋キャンパス本館の設備用中央監視装置の更新により設備の管理・責任体制の徹底を図り安全面の管理が向上した。 4.全キャンパス間遠隔画像・音声配信設備は、ＤＸ事業との整合を図り、学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ コモンズ）の効率的な整備のため見直し検討することとした。 1.教育ＤＸの推進。 ・令和３年度文科省補助金「「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」と「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」1.7 億円を獲得し、ヘルスケア産業のイノベーションの加速とデジタル医療人材育成を実現するための設備・ICT ツールの導入（全キャンパス）や教務システム（CampusPlan）や LMS（WebClass）の改良を行い、学修成果の可視化による教育の質保証、教職員の業務改善を進めている。 ◇ＩＴ基盤の強化 ・仮設 5G 環境を全キャンパスに導入済み。 ・情報セキュリティーに関し学内規定の整備を実施 ・CampusPlan ポータル機能を導入済、CampusPlan と WebClass をシングルサインオンできる環境を整備した。全学的運用には学内の調整が必要。 ・貸与継続中 ・CampusPlan に機能追加済み、全学導入を要検討。				

第3期中期計画	令和4年度計画	評価区分	令和4年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化（対面・オンライン選択授業） ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ＩＣＴツールの計画的配備 ・ＩＣＴ利用支援体制の構築 ◇学修成果の可視化 ・ＬＭＳ（学修管理システム）と教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ＩＣＥルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 **【評価指標】** ・教育ＤＸの推進状況	◇教育設備面の強化 ・教室設備のハイフレックス化 ・授業コンテンツ収録スタジオ整備 ・代替実習環境の充実 ・ＩＣＴツールの計画的配備 ・ＩＣＴ利用支援体制の構築 ◇学修成果の可視化 ・ＬＭＳと教務システム連携強化 ・ディプロマサプリメント機能拡充 ・ＩＣＥルーブリック全学導入 ・学修ポートフォリオの整備 **【評価指標】** ・教育ＤＸの推進状況		◇教育設備面の強化 ・産業DX補助金による世田谷キャンパス改修において、6教室（A202、A203、A207、A301、A302、A402 ）に収録用HDカメラと拡声システムを追加し、ZOOM ・次年度以降検討を開始する ・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、全学共通かつ計画的な調達の視点で次年度アイテムを決定（12月）。 ・ICT利用支援体制は産業DX予算を活用し、業務委託者を世田谷と五反田キャンパスにテスト的に配備、検証中。 ◇学修成果の可視化 ・DX補助金を活用して、学修者の出席状況からリタイヤしそうな学生を検知し、教職員や保証人に周知する仕組みを構築中。来年度より医療情報学科で次年度4月より試行予定。 ・和歌山キャンパス大学院において、ディプロサプリメント機能を追加。 ・勉強会を2回実施（9月）、約50名の教員が参加 ・LMS（WebClass）のポートフォリオ機能の学修ビューワ勉強会を開催（8月）。また、隣地実習に最適化されたF.CESSを12月に全学デモ、次年度のICTツールとして立川・和歌山看護の導入を決定				
2.研究ＤＸの推進。 研究活動を支えるＩＣＴ基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。 ◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるＩＣＴ基盤強化 ◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けＩＣＴ基盤強化 **【評価指標】** ・研究ＤＸの推進状況	2.研究ＤＸの推進。 研究活動を支えるＩＣＴ基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。 ◇研究データ基盤の整備 ・研究を支えるＩＣＴ基盤強化 ◇科研費の管理、運用の効率化 ・科研費獲得に向けＩＣＴ基盤強化 **【評価指標】** ・研究ＤＸの推進状況	Ⅱ	2.研究ＤＸの推進。 ・令和4年度は、教育DXの基盤整備に注力した。次年度より研究DXに関して検討開始予定。 ◇研究データ基盤の整備 ・令和4年度は教育DX整備を先行したが、来年度から研究用ICT基盤強化について検討予定 ◇科研費の管理、運用の効率化 ・エクセルによる実績管理から、ICT管理ツール「科研費Pro」を導入し、業務のDX化を進めている。				
3.事務ＤＸの推進。 教育研究を支える業務運営全般のＤＸ化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を	3.事務ＤＸの推進。 教育研究を支える業務運営全般のＤＸ化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を	Ⅳ	3.事務ＤＸの推進。 ・学習基盤推進室が中心となって、教育DX・事務DXに関する調査及び導入を行っている。ツール導入だけではなく、運用の視点で、分散した事務職員のリソースを、外注化や集中化によって効率的にできないか模索中。				

第３期中期計画	令和４年度計画	評価区分	令和４年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
高める。	高める。						
◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理	◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理		◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・人事情報システムを追加、任用から辞令までの人事管理を電子化した。 ・経理部門への CampusPlan 導入の可否を調査した。 ・半期に一度、成績表を印刷して郵送を行っているが、今年度 CampusPlan アンシンサイトを導入し、保証人が Web で閲覧きる環境を整備中、来年度から運用開始め目指す。				
◇問合せ業務の効率化 ・ＡＩとチャットボット(自動会話プログラム)の活用	◇問合せ業務の効率化 ・ＡＩとチャットボットの活用		◇問合せ業務の効率化 ・SI ベンダーもポッドチャットシステムを紹介いただくなど、調査中。				
◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行	◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行		◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書のコンビニ（学外）発行システム構築中、　次年度５月以降にカットオーバーを予定。				
・電子マネー決済導入	・電子マネー決済導入		・次年度より検討を開始する。				
・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化（共通業務）	・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化（共通業務）		・補助金の一部を活用し、新設の大学院プライマリケア看護領域の CampusPlan 設定作業やデータ入力業務を外注化、バーチャルバックオフィスの実証実験中。				
◇業務のオンライン化 ・各種決済	◇業務のオンライン化 ・各種決済		◇業務のオンライン化 ・証明書コンビニ（学外）発行システムの決済機能を活用して、追試験などの金銭の授受を伴う申込などをコンビニ決済に移行する。次年度５月以降に対応予定。				
・勤怠管理	・勤怠管理		・次年度対応予定				
・雇用委託契約	・雇用委託契約		・次年度対応予定				
・会議、コラボレーション	・会議、コラボレーション		・補助金等を活用して、４キャンパスにオンライン会議（ZOOM）可能な電子黒板を導入。特に、学部長等会議や COVID-19 対策本部会議など、本部での会議をハイブリッドで先行実施。				
◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化	◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化		◇ペーパーレス化 ・ＳＩベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。				
・保管資料のペーパーレス化	・保管資料のペーパーレス化		・ＳＩベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。				
・ペーパーレス会議の検討	・ペーパーレス会議の検討		・全学的なペーパーレス化を実現するため、従来印刷物を配布していた学部長等会議をペーパーレスにて試行し、課題抽出する。				
◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進 ・データ資産の集約基盤整備	◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進 ・データ資産の集約基盤整備		◇データによる教学ＩＲ、経営ＩＲの推進・学内のビッグデータ解析ツールとして、データサイエンティストが不要なAI分析サービス（dotData Lite）をＳＩベンダーにヒアリング。				
【評価指標】 ・事務ＤＸの推進状況	**【評価指標】** ・事務ＤＸの推進状況						

第３期中期計画	令和４年度計画	評価区分	令和４年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画46】（研究協力部） 教育研究活動に必要な教員の研修の機会を確保するため、学会・研究会に参加する等、就業規則に基づき適切な配慮を行う。また、外部資金への積極的な申請を奨励し獲得を図る。 **【計画達成のための方策】** 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。 **【評価指標】** ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）	**【年度計画46】** 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。 **【評価指標】** ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）	Ⅳ	・科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部講師を招いて説明会を開催しており、今年度は独立行政法人日本学術振興会 研究事業部研究助成第ニ課 課長代理の荒田 孔明氏を招聘し令和４年８月８日（月）16:30から90分間オンライン開催で実施した。 参加者数は教職員等166名、参加率は教員58.3%と参加者数及び教員参加率とも過去最高となった。 ・科研費等外部資金の獲得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」の通りである。 ・令和３年度については、学外からの研究費が、前年度比66,179千円増（180%）となった。特に総合研究所が積極的に行った共同研究や厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚労科研）の受け入れ額の増が外部研究費増となった主な要因である。 また、科学研究費助成事業（科研費）新規申請件数及び採択件数はコロナ禍が続く中で申請件数及び採択件数とも前年度を上回った。 学外研究費の割合.docx　科研費等の採択状況の推移.docx				
【計画47】（図書館） ポストコロナに向け、図書館機能の整備・充実を図るとともに、図書館利用者のサービスの向上を図る。 **【計画達成のための方策】** 1.教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。 **【評価指標】**	**【年度計画47】** 1.教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。 **【評価指標】**	Ⅳ	1.例年と概ね同程度の数の図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の受入を実施した。				

第３期中期計画	令和４年度計画	評価区分	令和４年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況	・図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況						
2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。 **【評価指標】** ・図書館管理システムによる利用サービスの改善状況	2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。 **【評価指標】** ・図書館管理システムによる利用サービスの改善状況	Ⅳ	2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。				
3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。 **【評価指標】** ・図書館ガイダンスの実施状況	3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。 **【評価指標】** ・図書館ガイダンスの実施状況	Ⅳ	3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。				
4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・コモンズの整備に努める。 **【評価指標】** ・利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・コモンズの整備状況	4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・コモンズの整備に努める。 **【評価指標】** ・利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・コモンズの整備状況	Ⅱ	4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ラーニング・コモンズの整備について進捗はない。				
5. 図書館の書架を体系的･目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。 **【評価指標】** ・利用サービスの改善状況	5. 図書館の書架を体系的･目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。 **【評価指標】** ・利用サービスの改善状況	Ⅳ	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。				
6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。	6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。	Ⅱ	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館において目黒区地域内図書館の共同企画展示を実施し、地域連携会議を行った。				

第３期中期計画	令和４年度計画	評価区分	令和４年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【評価指標】 ・地域住民等による利活用状況	**【評価指標】** ・地域住民等による利活用状況						

研究費総額に占める学外からの研究費の割合

（単位：千円）

	令和元年度		令和２年度		令和３年度	
研究費総額	233,375	100.0%	208,875	100.0%	292,383	100.0%
学内経常研究費	162,079	69.5%	124,903	59.8%	142,232	48.6%
学外からの研究費	71,296	30.5%	83,972	40.2%	150,151	51.4%
政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	—	10,286	—	37,654	—
科学研究費補助金	61,285	—	60,190	—	62,641	—
民間研究助成金	1,216	—	1,500	—	11,000	—
奨学寄附金	100	—	0	—	0	—
受託研究費	3,145	—	5,028	—	3,186	—
共同研究費	5,550	—	6,968	—	35,670	—

科学研究費助成事業の採択状況の推移

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
申請件数	37	33	35	41	55	47	30	41
採択件数	10	8	7	10	22	13	7	8
採択率	27.0%	24.2%	20.0%	24.4%	40.0%	27.7%	23.3%	19.51%